

### 同窓会会計報告

平成18年度分(平成18年9月22日より平成19年9月18日まで)

#### I. 経常費

##### 収入の部

項目	18年度予算額	18年度決算額	比較増減	摘要
1 繰越金	2,168,263	2,168,263	0	前年度より繰り越し
2 入会金	2,001,600	1,994,400	▲ 7,200	7,200円×277名
3 会費	2,000,000	2,000,000	0	
4 寄付金	0	0	0	
5 その他	15	30,524	30,509	CD・名簿等販売・旅費基金・利息等
合計	6,169,878	6,193,187	23,309	

##### 支出の部

項目	18年度予算額	18年度決算額	比較増減	摘要
1 会議費	400,000	240,789	▲159,211	総会・新年会補助、各支部会出席費用
2 慶弔費	20,000	0	▲ 20,000	
3 卒業関係費	436,880	443,542	6,662	入会記念品、入会金を基金へ
4 通信印刷費	2,100,000	2,108,585	8,585	松陵通信、案内はがき、新聞広告
5 事務費	10,000	0	▲ 10,000	
6 寄付金	1,000,000	1,000,000	0	能代高校教育振興会へ
7 事業費	1,000,000	964,767	▲ 35,233	青春の碑改修・修版式PC機器・HP利用料等
8 基金	1,000,000	1,000,000	0	基金3へ
9 予備費	202,998	0	▲202,998	
合計	6,169,878	5,757,683	▲412,195	

#### 《差引残高》

収入 支出 差引残高  
6,193,187 - 5,757,683 = 435,504(次年度へ繰り越し)

#### II. 基金

種類	平成18年度元金	平成19年度元金	摘要
1 秋田銀行積立	29,381,053	29,784,872	入会金332,400円(1,200円×277名)
2 秋田銀行定期	6,741,630	6,760,720	
3 秋田銀行定期		1,000,000	
合計	36,122,683	37,545,592	

### 同窓会経常費予算

平成19年度分

#### (1) 収入

項目	19年度予算額	18年度予算額	比較増減	摘要
1 繰越金	435,504	2,168,263	▲1,732,759	
2 入会金	1,684,800	2,001,600	▲ 316,800	7,200円×234名
3 会費	2,000,000	2,000,000	0	
4 寄付金	0	0	0	
5 その他	696	15	681	預金利息など
合計	4,121,000	6,169,878	▲2,048,878	

#### (2) 支出

項目	19年度予算額	18年度予算額	比較増減	摘要
1 会議費	250,000	400,000	▲ 150,000	総会等補助、各支部会出席費用
2 慶弔費	20,000	20,000	0	電報
3 卒業関係費	380,000	436,880	▲ 56,880	入会記念品、入会金の一部を基金へ
4 通信印刷費	2,100,000	2,100,000	0	会報印刷・発送費、はがき、新聞広告
5 事務費	40,000	10,000	30,000	事務用品、事務局員手当
6 寄付金	1,000,000	1,000,000	0	能代高校教育振興会へ
7 事業費	280,000	1,000,000	▲ 720,000	インターネット利用料HP利用料
8 基金	0	1,000,000	▲1,000,000	
9 予備費	51,000	202,998	▲ 151,998	
合計	4,121,000	6,169,878	▲2,048,878	



岩谷 修一 (五十七期)

#### あれから二十年

に合わせるように、年金支給開始年齢の引き上げや年金額の削減、所得税の老年者控除廃止や公的年金控除削減、介護施設や医療機関でのホテルコストや給食費実費の徴収が実施され、そして後期高齢者医療制度の導入が図られている。

能代高校を卒業して二十年が経ちます。通勤の途中で能代高校の前を通ると、当時のことがいろいろと思い出されます。毎日の授業、定期試験、部活動と忙しい日々でした。特に授業についていくのは大変で、毎

日が必死でした。しかし、「学ぶ楽しさ」「学問のおもしろさ」を知ったのは高校三年間のおかげだと今は思います。朝、新聞を広げ、スポーツ欄を見るとき、反射的に母校の試合結果を探してしまいます。二十年前私は、バスケットボール部に所属していました。部活動の日々も今の自分を大きく支えてくれています。練習後、仲間と語り合った部室のある廊下は今もきつと変わっていないと思います。

年月を重ねていくたびに、私の母校への思いは強くなっています。これから、ますます我が母校が発展し、活躍されることを心からお祈りしております。



小野 立 (六十七期)

#### 或る断片的回想

能代の季節で云へば、寒さに向ふ今時分が一番好きだ。帚(ほうき)で落ち葉を掃くときに、周りから始めて段々真ん中へ纏(まと)めてゆくやうに、夏のうちに茂りすぎた生活の枝葉を刈り込んで、少しづつ、小さくしてゆく。蒲団を被り、読みさしの本を

開く。抄(はか)が行つて深更に及ぶ。硝子戸越しの刺すやうな冷気が、耳と手だけを冷やす。翌朝は早日起き出してストーヴをたき、葉(や)罐(くわん)へ湯をかける。梅漬(うめ)をあてて茶をすする。つましきは、どんな場合も美しい。

てゆきぎうなぐらるに、深く青かった。早春の田に落穂の残りを食(は)んでゐた数へきれない程の鷹(たか)や白鳥も、相染森、檜山辺の万緑も、日ごとに色をかへた白神の山並みも、さうしてあの吹雪も。詩歌の種にならぬものなど、何一つなかつた。故郷を去ることが、厭(いや)でならなかつた。モウ東京ハ、沢山夕。さう心の裡(うち)につぶやかずに済む日は、恐らく来ない。

